

未来をつむぐライフマガジン

ボラみみ

FREE PAPER

無料

ご自由にお持ち下さい

2024年 No.257

05・06 月号



つなげる



つながる



今号のテーマは、 **つなげる つながる**。

「常識の壁を、翼を生やして、飛び越えて」

なんだかワクワクする、希望に満ちたフレーズ。

昨年、市民活動団体の代表者が集まったパネルディスカッションで発せられました。社会問題が複雑化する中、人と人、活動と活動が軽やかにつながることが希求しています。

『ボラみみ』はボランティア情報誌として2000年にスタート、形を変えながらも、「つなげる・つながる」きっかけを届けることは、今も変わらない目的のひとつです。

今号は、パネルディスカッションを通して市民活動の実情や魅力の一端に触れるとともに、社会貢献意識の変化や市民活動への関心についてデータから読み解きます。

INDEX

2024 5・6

●つなげる つながる—常識の壁を飛び越えて	P.02
●つむぐひと	P.06
●社会への貢献意識のある人たちを、社会活動に「つなぐ」	P.07
●第81回 企業の社会貢献活動の現場から	P.09
●あなたの街のボラスポ紹介!	P.09
●CivicTech入門 11	P.10
●ボランティア情報	P.11
●ボラみみINFORMATION	P.15



上段：一般社団法人
草の根ささえあいプロジェクト

下段右：NPO法人陽和

下段左：認定NPO法人
セカンドハーベスト名古屋

つなげる つながる — 常識の壁を飛び越えて



一般社団法人
草の根ささえあいプロジェクト
代表理事
渡辺 ゆりかさん

ひより
NPO法人陽和 理事長
渋谷 幸靖さん

認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋
理事長
前川 行弘さん

司会 NPO法人ボラみみより情報局 代表
織田 元樹

「市民活動のこれまでとこれから」をテーマに、東海地域で活躍する3団体の代表者にお集まりいただき、それぞれのミッション、課題、展望などを語っていただきました。変わりゆく社会の中でそれぞれの道を歩む市民活動が、ときに手を取り合って、新しい道を探りながら前に進んでいます。市民活動の強さ、優しさが垣間見えます。（この記事は2023年11月25日に開催したボラみみより情報局総会イベントのパネルディスカッションを要約したものです）

社会課題と向き合って

織田： 3団体は、ボラみみアワード^(※1)の過去の受賞団体で、長年、社会課題の解決に取り組まれています。皆さん、最初に活動の紹介をお願いします。

前川： セカンドハーベスト名古屋は、食べられるのに捨てられる食品を企業や個人から寄付してもらい、福祉施設や生活に困っている方へ提供するフードバンクです。名古屋市を中心に東海3県で、食のセーフティネットを構築しようと活動しています。現在、支援している団体は約200、個人支援が約7000件です。年間500トン程の食品を集めているので、毎週10トントラック1杯分の食品を配布するイメージですね。フードバンクは2012年頃は全国に10団体程でしたが、2022年には250団体を超えて、かなり広がってきました。

渡辺： 草の根ささえあいプロジェクトの前身は2011年にスタートしました。リーマンショックや震災の影響で社会全体が余裕をなくす中、仕事やコミュニティを失う

など、苦境に立たされている人が多様化・多数化した時代でした。社会制度や公的支援からこぼれて孤立した人たちがいるのではないかと問題意識から、誰もが困らない社会を作れないかとの思いで立ち上げました。その後、若者支援に活動をのぼし、今は名古屋市子ども・若者総合相談センターを中心に相談事業などに取り組んでいます。

渋谷： 陽和は、非行・発達障害・虐待など「困難を抱えた子どもたち」に寄り添う活動を展開しています。家族間や交友関係のトラブル、就学・就労など子どもたちの不安や悩みと向き合い、夢や目標を持てるように支援しています。学校や企業と連携して、様々な事情があっても、失敗しても大丈夫だよという環境で再び挑戦できる場を作っています。私自身も不登校や非行の経験者。「過去を価値に」をコンセプトに、「あんなことがあったから今の自分がある」と子どもたちがいつか胸を張れるような社会づくりをめざしています。

※1 ボラみみアワード：2013年から年に1回、ボラみみより情報局が東海地域で活躍する団体を表彰。市民活動を応援するとともに、多くの人に関心を持ってほしいという願いをこめて実施しています。

コロナ禍の前と後、活動の変化

織田： コロナ禍は活動にも影響があったと思いますが、前後でどんな変化がありましたか。

前川： 僕らの団体は東海3県ほぼ全ての行政の相談窓口と連携していて、相談を受けた職員が「この人には食料支援が必要だ」と判断したら連絡が来る仕組みになっています。2017年頃は東海3県106の相談窓口と連携して、年間の支援件数が5000件程度でしたが、2020年は7000件の依頼が来ました。コロナが終わって2023年も個人支援の件数が大きく減る兆しはなく、困窮者が増えたことを肌身で感じています。食料支援は非常に有効だということで、社会福祉協議会も独自で食品を集めるようになってきました。食品支援が困窮者支援に有効だということに多くの皆さんが気づいてくれたのだと思います。そして、もう一つの大きな変化は個人の寄付が増えたこと。国からの給付金10万円を寄付してくれた人がたくさんいました。

織田： 食料品の集まり具合はどうですか。

前川： 2023年の食品寄贈実績は前年に比べて10%減、30%ぐらい減っている月もあります。物価高の影響です。食品会社も食品ロスに対して企業努力をすることで寄贈量が減ってきています。500トンの食品を集めようと思うと、10年前は100社ぐらいで集まっていたのが、今は300社回らないと集まらない。そのためより多くの食品会社に活動を理解していただき、寄贈をお願いします。また個人ができる社会貢献活動として、フードドライブ活動を広めようと動いているところです。

織田： 渡辺さん、子どもたちからの相談内容に変化はありましたか。

渡辺： 名古屋市子ども・若者総合相談センターは市内在住の0歳～39歳の方とその保護者の方が対象で

す。どんな悩みもOKなので、ひきこりの問題から命に関わる問題まですごい幅の相談が舞い込んでくるんです。コロナの影響は小さいことから大きいことまで、実にたくさんのが起こりました。コロナ禍で一体何が起きていたんだろうと考えたとき、私は、日本って三つの呪いにかかっていると思っているんです。一つが「強くあれ」、二つ目が「効率よくあれ」、三つ目が「人に迷惑をかけるな」。右肩上がりの経済成長の中いろいろなことがごまかされたりカバーされながら、その三つがまるでまだ存続しなければいけないもののようにあったんですが、コロナで崩壊したというか、その呪いが解けてきたように思える。解けてきたときに何が起こるか。生きることが実に複雑だということと向き合わなければならなくなったんですね。

織田： 複雑性、多様性に対応しなければいけない？

渡辺： 小・中・高・大学を出て正社員になるという王道の呪いが解けた途端、じゃあ自分はどう生きなきゃいけないかっていう、その複雑性に立ち向かわなければいけない。でも若者は、その王道を器用に破綻なく歩むことを教育でも家庭でも、社会の大人からも教わってきました。今まで必死に身につけてきた武器はもう使えないって絶望ですね。それが今、目の前で起きていることではないかなと思います。子どもたちは多様なあり方・生き方を選択しているんだと気づき始めていて、私たちが多様性が確かに存在し始めていることを現場で感じています。

織田： 渋谷さん、就労支援の現場はいかがですか。

渋谷： 飲食業が全部だめになりました。保護者さんも仕事が減り、家庭も困窮して、就労がもう壊滅状態になったことは一番困りました。コロナが回復傾向になったときに、その間の蓄積が一気に出てきて、虐待の相談が毎週のように入るようになりました。今、児童相談所と提携して対応していますが、一時保護所に入りきれないほど子どもが増えています。児童相談所だけでは対応しきれない状況が今も続いています。雇用と虐待、家庭の問題が一気に増えたのが、今もまだ解決には至ってない。飲食業も少しずつ回復して、仕事は広がってはいますが、子どもたちの家庭内の問題はまだ継続しているという肌感ですね。

コミュニティがひとつあれば

織田： 世界情勢や生活様式の変化の中で、これか





らどのように活動を発展させようとお考えですか。

渋谷： 子どもたちの選択肢を増やすことが大切だと思っています。今のZ世代、α世代は、圧倒的に僕たちよりも長けています。生まれたときからスマホがあって、以前は「ゲームなんかやめなさい」って言われた時代でしたが、今はゲームも仕事になる。困窮している保護者さんは横のつながりが乏しいので、例えば介護や福祉、パソコン関係などいろいろな仕事があることを子どもに提示することが難しいし、相談する相手もない。多様な情報を子どもたちが手に入れて選択できる社会にならないといけない。望んだことに対してこういうこともあるよと提示できる大人が増えれば、子どもたちは自分に合った環境で力を発揮できると思っています。

織田： 子どもたちが接する大人の幅が広がれば広いほどいい。どう作っていこう？

渋谷： 僕でできること・できないことがたくさんあって、それぞれの支援の仕方があると思うんです。困ったことを相談できるブレインがいれば問題って割と解決していけるんですよ。今日のような場を大切に、ここで終わりではなく、継続してつながって一緒に考えて問題解決していく。支援者がもっと集まって交流して、一緒に幸

せを作っていく。ゴールに向かって歩いていける仲間が増えれば、どんどん問題が解決していくと思っています。

織田： 思いもよらないチャンネルとつながることで解決の道が見つかることもありますね。前川さん、いかがですか。

前川： 個人支援については東海3県のほぼすべての窓口と連携していますが、団体支援は引き取り方式のため名古屋近郊の取りに来られる人にしか渡せていないという状況です。フードバンクというのは基本的には地産地消の活動。だから、各地の企業から食品の提供を受けて、各地の困窮者に配るというのが増えてきて、愛知県でも30団体ぐらいあるのかな、半分以上が子ども食堂ですけど。そういったネットワークを広げて、東海3県隅々まで、何か困っても食にはありつけるという状態を作れるようにすることが必要だと思っています。

織田： 渡辺さんはどうですか。

渡辺： 多様性を目指していかざるを得ないけど、多様性という言葉の中身も十分に議論できてないんじゃないかなど。私の団体はどう多様性を表現していくのか考えたときに、弱さというものをのりしろにしていくことだと思うんです。弱さを開示していく。一人ひとりが弱さを開





示できることが、弱さのバリエーションとして多様性を示すんじゃないかなと思っています。自分がこんなふうに暮らしたい、こんなふうに人生を送りたいと思うときに、ここが足りなくて弱い、つらい、ここが孤独ってところを開示できて、それを助けてくれる人が、相談者だろうと、若者だろうと、生まれたての赤ちゃんだろうと構わないというコミュニティが点在するような社会を作りたいと思っています。そこに行けば自分が生きていけると思える温かい記憶が生まれたり、この人に会うために明日頑張ろうと思える誰かがいたりする場、そういう小さな自分のお気に入りコミュニティが一つあれば、人は生きていけると思っています。コンビニの数ぐらい地域に点在することが、これから日本を面白くする一つの大きな鍵なんじゃないかと感じています。

織田： 自治会や町内会という一つの地域を核にした動きは衰退してきている一方で、新しいコミュニティの芽があちこちで育ってきているなど感じています。

関わり合って、助け合って

織田： 最後に、展望、要望など一言ずつお願いします。

渋谷： 今、豊田市で施設を開設する準備を進めています^(※2)。少年院を出たあと行き場のない子ども、虐待や親子関係のトラブルで自宅では暮らせない子どもなどを受け入れ、再出発を支援する自立援助ホームです。「とよた多世代参加支援プロジェクト」という支援団体のネットワークにも入れていただいて、どんどん連携が進んでいます。個人間のつながりだけでなく行政と一緒にやることで支援の輪はもっと広がると思っています。

渡辺： カッコいい大人、とがった大人、だらしない大人、いっぱいいるじゃないですか。時にハチャメチャが

起こってもいいので、そういう人たちと子どもがいかに出会えるかを演出することをたくさんの人に手伝ってほしい。支援する・支援される側の立場を超えて、いろんな大人が寄ってたかって、子どもたちにこんな生き方も楽しいぜって言う。子どもたちがそれを選んだときに、不利益を得ない。きちんと学びや働きやつながりや経験が保障されることをしてきたいなと思ったとき、私たちだけでは無理なので、皆さんの力を貸してほしい。今までの常識の壁を、翼を生やしていろんな人と一緒に飛び越えていきたいなと感じています。

前川： 日本って年貢の文化なんですよ。年貢＝税金は真面目に払う、だけど福祉は国がやれという文化。それが成り立たなくなってきたような気がします。パンテリンドーム ナゴヤでフードドライブを開催したときに3万人ぐらいの来場がありました。ちゃんと広告を見て食品を持ってきてくれた人は100人ぐらいでした。その状況に、みんなで寄付の文化、助け合いの文化というのを作っていくないと、痛烈に思いました。今の経済状況で、僕らが実際に食品を送っている中で強く感じます。みんなで助け合う時代、みんなってのは一部の人じゃなく、みんなね。

渡辺： 三つの現場でつながる話ですよ。ボランティアや支援団体というコミュニティを知っているボラみみより情報局さんのような団体が、そこにどんなタイプのコミュニティがあり、そこにどんな強みと弱みがあり、その弱みの部分を支えて連携していけるといいのかを一緒に探っていけると、すごく嬉しいなって思います。

織田： いろんな人が関わって、助け合っていく。誰かが助けるのではなくて、お互いが助け合っていく関係性を築ける社会が理想です。多様につながって、みんなで作っていききたいですね。



ネストール・プノさん | フィリピンコミュニティ・セントラルジャパン (FCCJ)

人々の暮らしに寄り添い、地域や社会の課題解決のために、日々活動している人たちがいます。困っている人々の声、ご自身の体験や感じたことを丁寧につむいで、よりよい明日を実現しようとしている人たち。そんな、未来を「つむぐひと」に、ご自身の活動や思いについてご紹介いただきます。

つながる心、ひろがる応援の輪

2024年1月1日にマグニチュード7.6の揺れが能登半島を襲った4日後、私は「フィリピンコミュニティ・セントラルジャパン(FCCJ)」のメンバーとして、ジェリクソン・アルセオ副領事たちと共に、被災したフィリピン人を訪問しました。訪問の目的は、被災したフィリピン人の状況・ニーズを把握すること、そして、どのような支援が可能かを知ることでした。

FCCJは昨年7月に発足したばかりの団体で、資金がないため、支援を呼びかけたところ、全国のいくつかのフィリピンコミュニティや個人から寄付が寄せられました。2021年に、コロナ禍の影響やニーズを共有するために、全国の在日フィリピンコミュニティのリーダーを集めてオンライン会議を開いたことがきっかけで、コミュニティ同士のつながりがあったからです。特に過去の災害で支援を受けた人たちは、「今度は私たちが応援したい」という気持ちを強く持っていました。その寄付金で必要な食料や水を購入し、さらに愛知県内のいくつかのフィリピンコミュニティから支援物資を預かり、石川県に向かいました。

まずは志賀町で、石川県のフィリピンコミュニティの会長である安藤エディサさんに会い、彼女の案内で、フィリピン人が滞在している七尾市の避難所へと向かいました。そこで彼らに支援物資を渡し、次は、津幡町にある10家族以上のフィリピン人が暮らすアパートに向かいました。そこでも支援物資を渡し、今後の支援に向けて相談したあと、名古屋に戻ってきました。

私は名古屋にあるフィリピン人の子どもたちの学校(国際子ども学校)で講師をしているため、学校の長期休みを除くと被災地に行ける日は限られてしまいます。そんな中でも仲

間の協力を得て、1月に2回、コミュニティから託されたたくさんの方の支援物資を持って石川県へ行くことができました。訪問のたびに聞き取りをし、次の訪問で必要な物資を届けられるように調整しました。1月末の訪問時に、フィリピンの温かい食事を提供し、彼らとゆっくり話す時間をつくれなかと、エディサさんと相談し、2月の訪問時には、多くのフィリピン人が集まれるよう2つの会場を手配しました。物資支援だけでなく、被災した彼らの経験や不安な気持ちに耳を傾けることが大事だと思ったからです。

まだまだ復興への活動は続きます。震災の数週間前に来日したばかりの技能実習生が直面する課題への対応や、各コミュニティ活動への支援など、フィリピンコミュニティのニーズや要望を踏まえ、必要な支援を届けられるよう、いろいろな人たちと連携していきたいと思っています。



(2024年3月にネストールさんにヒアリングをし、ボラみみ編集スタッフがまとめたものです)



メッセージ

I want to express my gratitude to everyone who has been helping the victims of the Noto Peninsula Earthquake. Let us all continue to support them, even in small ways.

能登半島地震で被災された方々を支援しているすべての方々に感謝を申し上げます。たとえ小さなことであっても、これからも支援を続けていきましょう

社会への貢献意識のある人たちを、社会活動に「つなぐ」



5年ごとに行われる社会生活基本調査の「ボランティア(社会奉仕、社会的活動)の行動者率」のグラフを見ると、1991年の30%から2016年は26%へと減少し、2021年には18.1%へと大きく減少しました。2021年の減少は、2020年の新型コロナウイルスのパンデミックにより「不要不急の行動自粛」が呼びかけられた影響が考えられます。社会課題に取り組むボランティア活動や社会活動は決して「不要不急の行動」ではありませんが、活動場所の制約などを受けて活動できなくなる実態があ

りました。

また、内閣府の「市民の社会貢献に関する実態調査報告書」の「寄附経験の有無」のグラフを見ると、1年間に寄附をした人の割合は、2018年が41.3%で、2021年には35.3%へと減少しています。新型コロナウイルスの影響で仕事ができなくなったり、収入が減少した人が増えたことが背景にあると思われます。一方で、フードバンクなど国内の困窮者に食糧支援を行っているNPOでは、寄附が増えたとの報告も聞かれます。

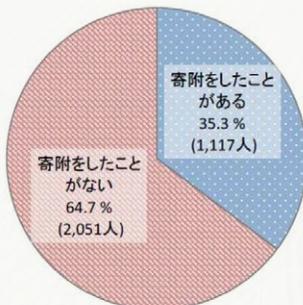
ボランティア(社会奉仕、社会的活動)行動者率



出展： <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200533> 社会生活基本調査より作成

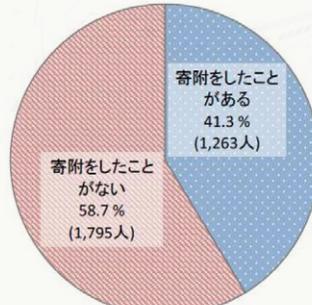
寄附の経験の有無

【2021年の1年間での寄附の経験】



(無回答者数：2人)

【2018年の1年間での寄附の経験】



(無回答者数：14人)

n = 3,168

n = 3,058

出展： https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/R4_shimin_report.pdf

「2022年度(令和4年度)市民の社会貢献に関する実態調査報告書 2023年9月 内閣府」より引用

社会への貢献意識



出展：※<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-shakai/#tablelist>

社会意識に関する世論調査「内閣府政府広報室(令和5年3月)より作成

市民活動の必要性



https://www.city.nagoya.jp/sportsshimin/cmsfiles/contents/0000151/151425/shiminkatsudousokushin_kaitei.pdf

「名古屋市市民活動促進基本方針 改訂版 令和4年3月 名古屋市スポーツ市民局地域振興部市民活動推進センター」より引用

このように、ボランティアや寄付などの社会活動を行う人の割合は減少してきましたが、内閣府が1974年から行っている社会意識に関する世論調査の「社会への貢献」のグラフを見ると、「貢献意識をもっている」という人の割合は増加傾向にあり、統計を取り始めた当初はおよそ3人に1人の割合だったのが、近年では3人に2人へと倍増しています。

また、名古屋市の市政世論調査および市政アンケートの「市民活動の必要性」のグラフを見ると、「必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」の合計は、平成22年度が87.3%、平成30年度が83.7%、令和2年度が75.2%と減少しているものの、およそ4人に3人の高い

割合で、社会課題に取り組む市民活動が必要だと考えられていることが分かります。

上記統計から、社会への貢献意識は高いにもかかわらず、実際に活動に参加する人の割合は減ってきている状況にあると言えます。多様化する社会課題が増え続ける中で、今後ボランティアや寄付など社会活動に取り組む人をどのように増やしていけるかが大きなカギとなります。幸いにも、「社会への貢献意識をもっている人」の割合は減少していないことから、こうした潜在的な社会活動の担い手や寄付者を社会活動につなげ、行動する人々が増えていくことで、社会はよい方向に向かっていくことができるでしょう。

地元企業の社会貢献活動について、各担当者に自社の活動を紹介していただいております。81回目となる今回は、三河ベイフットボールクラブ株式会社／FC刈谷です。

FC刈谷が目指す ～人と地域の健康を、ずっと。～

三河ベイフットボールクラブ株式会社／FC刈谷 代表取締役社長 佐々木 賢二

FC刈谷は、愛知県三河知多地域としては初となるJリーグクラブを目指し、刈谷市をはじめ東浦町・大府市・高浜市・碧南市・阿久比町・西尾市をホームタウンとして活動しているサッカークラブです。

ただ単にサッカーが強くなることだけを目指しているのではなく、クラブ全体で地域貢献活動を積極的に行っています。ホームタウンエリアを中心とした子どもたちの健全育成や、地域の方々の健康増進、健康寿命の延伸や健康社会の実現など、サッカークラブの強みを活かし、スポーツを通じた地域の課題解決に取り組むことが、私たちの地域貢献の形であり、役割だと思っています。またクラブ単体ではなく、行政、医療機関、パートナー企業との活動により、健康分野におけるさらなる地域貢献を実現しています。



具体的な活動を簡単にご紹介します。子どもたちの運動への興味や健康に向けたサッカー教室、子ども食堂やフードドライブ、生活保護世帯の子どもたちへのランドセル寄贈、サッカー元日本代表選手・茂庭監督による、「夢」をテーマにした小・中学校での夢教室、高齢者施設での認知症予防に向けた多世代交流など、子どもからお年寄りまでたくさんの方々と交流させていただいています。選手と地域の方々の心の距離が近いことが、FC刈谷の強みです。

昨年は上記のような地域活動を年間132回実施しました。回数が多ければいいというわけではないですが、地域を愛し、地域に愛される存在となるため、私たちはこの愛知県三河知多地域とともにJリーグを目指しながら、サッカーと地域活動で皆さまに健康と笑顔を届けていきます。

FC刈谷（運営：三河ベイフットボールクラブ株式会社）

〒448-0003 刈谷市一ツ木町8-11-13 The ONZiii Gallery OZO町
ホームページ <https://fckariya.jp/>

●●●● 次回は、株式会社 弘伸運輸をご紹介します。



あなたの街のボラスポ紹介！

ボランティアやNPOの情報を得ることができる
あなたの街のボランティアスポットを紹介していきます。

大府市民活動センター「コラビア」

市民活動団体(者)のゲートキーパー！



「コラビア」とは、コラボレーション(協力・協働)からヒントを得た造語で、大府市民活動センターの愛称です。協働のまちづくりを目指し、市内で活動する市民活動団体、ボランティア団体、地縁組織等を対象に相談やサポート業務を行っています。

また施設内には、飲食の営業許可を取った厨房があり、「食を通じた市民活動」として、ランチ提供をしているワンデイシェフ(日替わりシェフ)たちがいます。コラビアスタッフは、そんな市民活動者のゲートキーパーとして、日々様々な業務に携わっています。

■所在地 大府市森岡町四丁目8番地 ■開館時間 9:00～21:00(休館日:月曜日、8/13～15、12/28～1/4)
■連絡先 TEL:0562-44-8500 FAX:0562-44-8511 E-mail:collabia@ma.medias.ne.jp



「シビックテック」ってご存知ですか？直訳すると「市民技術」とでも言いましょうか。市民や行政とIT技術者が協力しつつ、ITをうまく活かして社会課題に取り組む活動です。2013年にCode for Japanという団体ができた後、「Code for OO」という団体が日本中に80ほど生まれ、各地でシビックテック活動に勤しんでいます。この連載では、名古屋のシビックテック団体Code for Nagoyaの関係者が、いろいろなシビックテック事情をご紹介します。

今号では、ボラみみより情報局が、名古屋工業大学の白松研究室や名古屋市中区社会福祉協議会と一緒に進めている、AIを使ったワクワクするプロジェクトをご紹介します。

AIでやる気のある人々を探す

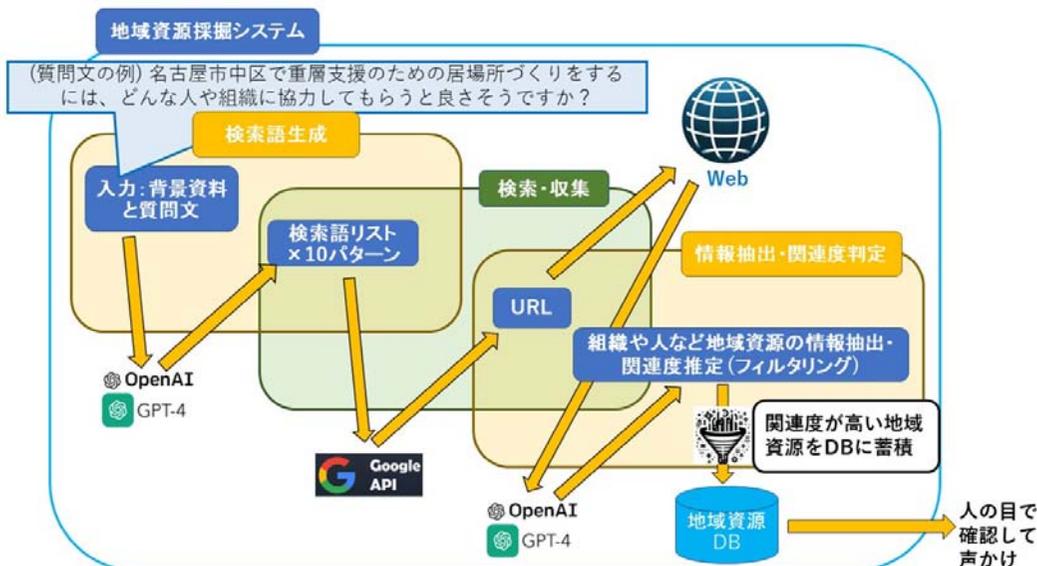
今回ご紹介するプロジェクトは、「AIを活用した地域資源の発掘と地域助け合いネットワークの構築」という2年間のプロジェクトで、トヨタ財団の助成を受けて進めています。AIをどう活用するのかというと、「地域助け合いネットワーク」の仲間になってくれそうな人々を探すのに使います。インターネット上で、生活に困っている人を支援したり、ひきこもりの人を助けたり、外国人をサポートしたりしている団体や個人を探すときに、ChatGPTのような「大規模言語モデル」と呼ばれるAIを使い、SNSなどで情報発信をしている、やる気のある人々を探索してくれる「地域資源発掘システム」を現在試作中です。このシステムを動かしてみると、やはり有名な団体から順に見つかるのですが、探索範囲をうまく設定すると、「知る人ぞ知る」ような魅力ある人たちが見つかりそうな結果が出ています。まだまだ未完成のプロトタイプで

はありますが、今後が楽しみなシステムです。

AIと人の力を合わせ、みんなが助け合える地域を

「地域助け合いネットワーク」を作るには、やはり直接会って話すことが大切です。そこで今後2年間は、みんなが集まるイベントをたくさん開催する予定です。そこでは、お互いに協力し合えるきっかけを作っていきます。同時に、AIが集めてくれた情報を整理して、助けて欲しい人・助けられる人をマッチングするシステムを作ったり、そのためのオープンデータを作ることも検討しています。

こうした取り組みを通じて、地域のいろいろな人たちが力を合わせて、地域の問題を解決していけるような土台を作れたらいいなと思っています。AIと人の力を組み合わせたこの画期的なプロジェクト。まだまだ始まったばかりではありますが、ぜひ今後にご期待下さい！





ボランティア初めの一歩 大切なマナー&ルール

- 新型コロナウイルスの状況等により、変更・中止となる場合もあります。必ず事前に各団体にご連絡ください。
- 希望のボランティア先へ連絡するときは、まず名前を名乗って、用件（ボランティアに参加したい・詳しく聞きたい）を正確に伝えましょう。
- ボランティアへの参加当日、急用で参加できなくなったときは、必ず電話連絡を。また、約束の時間は守りましょう。

「学習支援・子ども食堂サポーター」募集



勉強を教えるのではなく一緒に答えにたどり着くような、どなたにでもできるサポートです。学び直し、教育や福祉に関心のある方におすすめです。併設の子ども食堂のお手伝いも募集。様々な大学の仲間と一緒に子どもたちを応援しましょう！※「尾張旭市まちづくり活動貢献学生認定制度」の対象

青少年 生涯学習 愛知県 尾張旭市

- 日時：毎週土曜日8:30～16:30
- 場所：多世代交流館いきいき 尾張旭市稲葉町1-41-1
- その他：下記問合せ先、QRコードよりお申込みください。地下鉄東山線「藤が丘」、名鉄瀬戸線「尾張旭」より送迎有。ボランティア活動証明書発行。交通費実費支給、子ども食堂の昼食付き。

NPO法人しみんシップnet
 担当：伊藤
 TEL:070-3144-6485
 E-mail:shiminiship@gmail.com

児童養護施設での学習支援ボランティア



社会的養護を必要とする子どもたちを応援する活動として、児童養護施設で中学生を対象に（小学生参加の場合あり）、高校を卒業できる学力をつけてもらうため、現地（またはオンライン）での学習支援を行っています。教えた経験がない方も、教える自信のない方も、子どもが好きな方ならOKです。

青少年 愛知県 尾張旭市

- 日時：土曜日（休みあり）9:50～12:00
- 場所：児童養護施設蒲生会 大和荘 尾張旭市柏井町公園通512
- その他：施設の都合などでお休みになることがありますので、Eメールにて、必ず事前にお問い合わせください。活動の様子はホームページをご覧ください。

NPO法人ジュヴェニル
 担当：山中
 E-mail:mail@juvenile.aichi.jp

第35回堀川まつり



35年間続いてきた堀川まつりの舞台裏を経験しませんか。祭りの準備・片付けのお手伝いをお願いします。今回は、35周年事業で花火を上げるため、いつもより多種多様な準備が必要です。数時間でも大丈夫ですのお手伝いをお願いします。

まちづくり 青少年 名古屋市 熱田区

- 日時：5月18日（土）・19日（日）・25日（土）・26日（日）・31日（金）、6月1日（土）・2日（日）9:00～、3日（月）10:00～ 数時間の参加でも大丈夫です
- 場所：宮の渡し公園（七里の渡し公園）
 日程によっては事務局での作業もあり
- その他：各日程の活動内容はホームページでご確認ください。ホームページから、または電話、FAX、Eメールにてお申込みください。【申込〆切】5月15日（水）

NPO法人堀川まちネット 担当：川口
 TEL/FAX:052-217-8106(15:00～19:00)
 携帯:080-5132-3130
 E-mail:horikawa-machinet@horikawamachi.net

第11回市民と企業の協働フェスタin一宮



様々な企業・ボランティア団体の福祉、医療、介護活動を楽しみながら学ぶことができるイベントを行います。イベント運営、会場設営、ものをつくり遊んだりできる体験コーナー、認知症テスト体験コーナーのお手伝いを募集しています。説明会を5月17日（金）10:00より、一宮市社会福祉協議会大和事務所で開催します。

医療 高齢者 愛知県 一宮市

- 日時：6月8日（土）10:45～15:45
- 場所：尾張一宮駅前ビル2階シビックテラス 一宮市栄3-1-2
- その他：電話、FAX、Eメールにてお申込みください。
 【子ども連れでの参加】可能【定員】5名・先着順

NPO法人一宮ボランティアグループリーダーの会
 担当：日置
 TEL/FAX:0586-24-6616
 E-mail:vglichinomiya21@ruby.plala.or.jp

一宮七夕まつりのイベントスタッフ募集



大きなイベント「一宮七夕まつり」の中で、小さな市民「まつりづくり」。市役所横の公園と、商店街隣接の駐車場を、無料休憩所、フードコート、ライブスペースとし、一宮七夕まつりに憩いと楽しみの場所を安全安心な飲食物と良質なライブで形成します。

まちづくり 文化 愛知県 一宮市

- 日時：7月24日(水)～28日(日) 夕刻から22:00の間
- 場所：葵公園 一宮市本町2-4-57
本町自動車整理場 一宮市本町3-9-27
- その他：ホームページの「ボランティア募集」からお申込みください。
【持ち物】水分、猛暑対策
【申込〆切】6月30日(日) 【定員】20名ほど

NPO法人志民連いちのみや
担当：星野
TEL:090-2265-9188 FAX:0586-72-8885
E-mail:info@shimin.org

カフェボランティア募集



福祉施設の一角にある喫茶店風の素敵なサロンで、第1土曜日にピアノやヴァイオリン、チェロの演奏会を開き、授産施設で作ったシフォンケーキとコーヒー・紅茶、演奏とおしゃべりを楽しんでいます。コーヒーやケーキを運んでくださるボランティアを募集しています。名演奏を楽しみながらボランティアしませんか？

障害者 まちづくり 名古屋市 西区

- 日時：毎月第1土曜日12:00～16:30
5月4日(土)、6月1日(土)他
- 場所：サロンうたさと
名古屋市西区歌里町147
- その他：電話にてお申込みください。新型コロナ等の影響で変更になることがあります。その際は担当からお知らせします。【定員】2～3名

社会福祉法人エゼル福祉会
担当：大川
TEL:052-505-6082(平日9:00～17:00)
E-mail:convini@ezeru.or.jp

ベトナム青年に日本語を教えるボランティア体験



名古屋のベトナム青年等に日本語を教えるボランティア体験です。初めての方歓迎です。土曜日に月2回以上参加できる方のみ、すみませんが1回のみは不可です。集合時間は18:20です。遅れた場合、別の日にしていただくことがあります。

国際 生涯学習 名古屋市 南区

- 日時：5月11日(土)・18日(土)・25日(土)、6月1日(土)・8日(土)・15日(土)・22日(土) 18:30～20:40
- 場所：名古屋市南生涯学習センター視聴覚室または第3集会所
名古屋市南区東又兵衛町5-1-10
- その他：お名前、メールアドレスまたは電話番号、勤務先(学生は学校・学部名)、参加希望日(2日以上)、簡単な自己紹介を書いて、Eメールにてお申込みください。【定員】2名

NPO法人名古屋ベトナムネット
担当：荒川
TEL:070-5642-2716
E-mail:758vietnam.net@gmail.com

パソコンボランティアになろう



私たちは現在の情報化時代でパソコンの操作などにお困りの方や、趣味にパソコンを使いたいが操作が分からないという方の相談を気軽に受けるボランティアをしています。パソコンボランティア養成講座を受講いただき、ぜひ一緒に活動いたしましょう。

情報化社会 生涯学習 名古屋市 千種区

- 日時：6月3日(月)・10日(月)・17日(月)、7月1日(月)
13:30～15:30、10日のみ13:00～16:00
- 場所：名古屋市千種生涯学習センター
名古屋市千種区振甫町3-34
- その他：QRコード(講座申し込みフォーム)からお申込み、またはEメールにてご連絡ください。【参加費等】500円
【申込〆切】5月24日(金) 【定員】20名

千種パソコン支援ボランティア
担当：戸崎
E-mail:chikusapasobora@gmail.com

NPO法人・一般社団法人

設立・会計・税務等の支援をします
お気軽にご相談ください

サカエ税理士法人 税理士・公認会計士 遠島敏行
名古屋市中村区黄金通2-54 TEL:052-482-6600
URL: <http://www.sakaetax.com>
<http://www.seturitu-unei.com/>
E-mail: info@seturitu-unei.com

地域に根差す 社会貢献企業へ

2021年2月 SDGs宣言

ニーズに応える印刷会社

デジタルコンテンツ・AR(拡張現実)等

オフセット印刷

商業印刷全般

セキュリティ印刷

金券、商品券、証明書等

防災マニュアル・飲料水



菱源株式会社

<https://hishigen.co.jp>

〒490-1144 愛知県海部郡大治町西條松下75
TEL:052-444-2323 FAX:052-444-2636
【東京営業所】TEL:03-5577-5686

●菱源株式会社は「ボラみみ」を応援しています。

ISO14001:
2015認証取得



気軽に
お問い合わせ
ください

子どもと遊ぶボランティア募集



名古屋市内の小学校や施設で子ども向けに工作やレクゲームを行っています。「子どもと遊ぶのが好きな大人の集まり」という感じでマッタリと活動しております。子どもと遊ぶのが好きな方はもちろん、学校の先生を目指している方には子どもとふれ合えるいい機会になると思います。

青少年

名古屋市
市内

- 日 時: 基本月1回(第3土曜日13:30~15:30)※例外もあり
- 場 所: 名古屋市北区金城小学校、西区浮野小学校トワイラートルーム及び生涯学習センターなど
- その他: 最近の活動はフェイスブックに更新しています。わいわいボランティアホームページの「ボランティア募集」欄またはEメールでお申込みください。

わいわいボランティア

問合せ

担当: 村山

E-mail: yy_volunteer2007@yahoo.co.jp



小中学生の居場所ボランティア募集



小中学生の居場所づくりをサポートしてくれるボランティアを募集中です。日常生活を充実させる体験を大事にしています。子どもと一緒に公園を走り回れる方! 教職員を目指している方! 社会福祉、心理学を学んでいる方! 子どものお兄さん・お姉さん的な立場になって、一緒に安心できる居場所づくりをしましょう。

青少年

名古屋市
中村区

- 日 時: 土曜日9:30~16:00、月曜日16:15~22:00
スケジュールはお問い合わせください
- 場 所: 名古屋市中村区靖国町1-94
- その他: 必ず事前にEメールにてお申込みください。
【資格、条件等】大学生、大学院生、社会人
【定員】毎回1名・先着順(理由: 子どもと支援者数のバランス、支援体制)

NPO法人ささしまサポートセンター

問合せ

子ども支援担当: 伊藤

E-mail: office@sasashima.info



ジュニアに将棋を教えますか?



未就学児や小中学生、大人初級者に将棋を教えるボランティア活動です。資格は必要ありません。将棋指導員資格者の方歓迎。

文化

生涯学習

名古屋市
昭和区

- 日 時: 第2日曜日(またはその前日)、第4日曜日(またはその前日)で公会堂の集会室が借りられる日 9:00~11:30
- 場 所: 名古屋市公会堂内集会室
名古屋市昭和区鶴舞1-1-3
- その他: Eメールにてお申込みください。
【子ども連れでの参加】可能

名古屋鶴舞インターナショナル支部 担当: 柳瀬

問合せ

TEL: 052-735-0180 (13:00~18:00)

FAX: 052-731-9527

E-mail: nagoyaint@gmail.com



ホームレスの自立支援



雑誌『ビッグイシュー』を販売するホームレスの人を支援するボランティア団体です。ボランティアとともに販売者も運営に携わりながら活動しています。ボランティアはタ方の雑誌の仕入れを支援するほか、イベント準備、販売促進ツール作り、生活支援も大切にしています。雑誌に挟み込む通信を制作して下さる方も募集中です。

人権

文化

名古屋市
西区

- 日 時: 15:00から約2時間。特に発売日前日(毎月14日と月末)に来ていただける方を募集しています。
- 場 所: オキナワ食堂ばるやバーラー
名古屋市中区那古野2-16-7
- その他: 必ず事前にEメールでお申込みのうえ、お越しいただきますようお願いいたします。ホームレス問題に興味のある方はお気軽にご連絡ください。【子ども連れでの参加】可能

ビッグイシュー名古屋ネット

問合せ

担当: 阿部

E-mail: bigissue_nagoya@yahoo.co.jp

携帯: 070-6929-7688 (緊急時のみ)



地域で活躍する人たちの話を聞いて地域の課題について一緒に考える動画番組

ボラちゃんねるず

<https://www.youtube.com/@boramimi>



「Waiwai Waiwai Channel」の協力と名古屋YWCA 90年の歴史に迫る!



絶賛配信中!



ボラみみYoutube「みみちゃんネル」チャンネル登録もよろしく!



岐阜県御嵩町での森林ボランティア活動



岐阜県御嵩町にあるヒノキ林の枝打ち・間伐を、月に1回(第2土曜と翌日の日曜)に行います。また、木工や製紙原料としての出荷など、間伐材の利用にも取り組みます。御嵩町は、名古屋地区の水源地となっている木曾川の上流にあります。私たちの「水源の森」の整備にぜひ力を貸してください。

環境 岐阜県 可児郡

- 日時: 5月11日(土)・12日(日) 10:00~16:00ごろ (いずれか1日だけの参加も歓迎です)
- 場所: 御嵩町 中公民館(なここうみんかん) 駐車場集合 岐阜県可児郡御嵩町中2171-1
- その他: Eメールにてご連絡ください。【参加費等】保険費用として100円【子ども連れでの参加】可能【定員】30名・先着順

みたけ・500万人の木曾川水トラスト

問合せ 担当:市村
TEL:052-735-5453(平日9:30~18:00)
E-mail:mitake500npa@yahoo.co.jp



【フードバンク】食品の引取ドライバー募集中!



名古屋市を中心に東海3県でフードバンク活動(まだ食べられるにも関わらず捨てられる運命の食品を企業・個人から寄付いただき、生活に困っている個人や福祉団体へ提供する活動)を行っています。今回は、食品メーカーなどに寄贈食品を引取に行くドライバーを募集しています。※男性が多い現場です。

まちづくり 経済活動 消費者 名古屋市 北区

- 日時: 毎週火・金曜日9:00~12:30
- 場所: 名古屋市北区城東町7-148
- その他: ホームページから事前にお申込みください。【参加費等】正会員会費6000円【資格、条件等】普通免許必須【定員】火曜日1名、金曜日1名

認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋

問合せ 担当:谷口
TEL:052-913-6280(月~金9:00~17:00)
FAX:052-913-6281 E-mail:info@2h-nagoya.org



誰も置きざりにしない社会をめざして



ボランティア・市民活動の意義や役割、原点等をふりかえり、次世代の実践者に「思い」を紡ぐことを目的に開催する「なごやボランティア楽集会」。今回は「誰も置きざりにしない社会をめざして~子どもを見守る現場から~」をテーマに、子ども・若者の声に耳を傾け活動しているお二人からお話を聴きます。

青少年 人権平和 名古屋市 北区

- 日時: (1)6月8日(土)(2)7月21日(日) 13:00~16:30
- 場所: 名古屋市総合社会福祉会館7階(1)大会議室(2)研修室 名古屋市北区清水4-17-1
- その他: 電話、または申込みフォーム(QRコード)からお申込みください。【参加費等】無料【申込〆切】(1)5月31日(金)、(2)7月12日(金)【定員】各回50名・先着順

なごやボランティア楽集会開催委員会

問合せ 事務局:名古屋社会福祉協議会 担当:内藤
TEL:052-911-3180 FAX:052-917-0702



『ボラみみ』のライターを募集中です!



『ボラみみ』の記事は、編集会議で各号のテーマや企画内容を相談し、メンバーが分担して、取材や原稿作成をしています。文章を書くのが好き、いろんな話を聞いてみたい人にはぴったりの活動です。実際の取材の前に、取材練習がありますので、取材をしたことがないという方もチャレンジしてみてください。

団体支援 名古屋市中区

- 日時: 編集会議:原則、毎月第1水曜日19:00~21:00 取材・原稿執筆:年2~3回程度
- 場所: 編集会議:名古屋市中区新栄町2-3YWCAビル6階またはオンライン/取材:主に愛知県内
- その他: まずはEメールまたはお電話でご連絡ください。その後、事務所またはオンラインで面談をさせていただきます。【子ども連れでの参加】可能【定員】2名

NPO法人ボラみみより情報局

問合せ 担当:佐原
TEL:052-228-7824(月~土13:00~18:00)
E-mail:office@boramimi.com



『ボラみみ』の財源は、みなさんの支援です。



ボラみみ

毎号9千部発行の『ボラみみ』は、ボランティア情報を無料で掲載、無料で配付しています。発行にはたくさんのボランティアが力を注いでいますが、それでも毎回多額の資金がかかります。是非会員になって『ボラみみ』を支えてください。

会員種類と特典

●が得られる特典です。

	賛助会員		正会員	
	個人・団体	法人	個人・団体	法人
年会費	3,000円	10,000円	10,000円	50,000円
ボラみみの活動がわかる年3回のニュースレター	●	●	●	●
市民活動の情報満載の『ボラみみ』が年6号	●	●	●	●
ボランティア情報の優先掲載			●	●
NPOや企業の広報掲載料の割引			●	●
ボラみみの事業活動・運営に参加ができる(総会の議決権)			●	●

振込先 特定非営利活動法人ボラみみより情報局 郵便振替口座/00830-9-71034 三菱UFJ銀行柳橋支店(普)/1799329



新規・継続会員登録の方々（順不同）

■法人正会員：

【継続】●社会福祉法人さくらんぼの会様

■団体正会員：

【継続】●特定非営利活動法人しみんシップnet様

■個人正会員：

【継続】●横田 進様 ●下野 恵子様 ●加藤 須陽人様
●岩尾 憲治様 ●森崎 典子様 ●廣井 修平様
●匿名1名

■法人賛助会員：

【継続】●学校法人糸菊学園 名古屋調理師専門学校様
●社会福祉法人あさみどりの会様
●中川区障害者基幹相談支援センター様

■賛助会員：

【継続】●吉川 典子様 ●深谷 明彦様 ●大久保 雄登様
●東山 尚子様 ●筒井 隆様 ●シュヨーネット様
●九番団地日本語教室AULA DO KYUBA様
●特定非営利活動法人ドリーム様
●特定非営利活動法人ル・スリール・ジャポン様
●匿名4名

■寄付：

●下野 恵子様 ●筒井 隆様 ●匿名28名



「ボラみみ」配布先

—詳細はホームページにて掲載中！—



●WEBより

●携帯より

<http://www.boramimi.com/haihu/>



QRコード



みんなの声

●特定非営利活動法人名古屋ベトナムネット様

参加されたボランティアの方々から、新しい視点で、イベントについて有用な意見をもらえたのでよかったです。

●特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ様

活動周知の機会となるので、また掲載したいです。

●特定非営利活動法人堀川まちネット様

『ボラみみ』掲載の継続による信頼と他への紹介もあるため、広報として重要視しています。

●かんでらmonzen亭様

活動を広く知ってもらいたいので、また掲載したいです。



編集後記



まち

何がつながるんだろう？つなげると、どうなるかな？面白そうだな。「つなげる つながる」という言葉には、ちょっとワクワクする響きがありますね。でも、もしかしたら、この言葉にワクワクできないときもあるかもしれないとも思います。つながるにはタイミングが大事で、つながりには濃淡がありますよね。タイミングを逃さず、誰かと、何かとつながると、今よりワクワクすることが待っているかも。そんな春になるといいなあ。



次号予告

次号のテーマは「自然にやさしい」。

2024年7月1日発行予定です。お楽しみに！

特定非営利活動法人
ボラみみより情報局

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F TEL 052-228-7824 FAX 052-228-7834
E-mail office@boramimi.com URL <http://www.boramimi.com/> 代表 織田元樹 印刷 菱源株式会社

センター主催講座・イベントのご案内

5/22[水] NPO講座 ～NPO法人設立のしかた編～ →14:00～16:00 (受付中)

「NPO法人ってなに?」「どうやってNPO法人を設立するの?」など、NPO法人の設立前に準備するものや書類作成のポイントを学べる講座です。自分たちでNPO法人を設立しようと考えている方はぜひ!

■定員: 30名 ■参加費: 500円 ■講師: 市民活動推進センター職員

6/15[土] ボランティア入門講座 ～ボランティアへのはじめの一歩～ →14:00～16:00 (5月11日受付開始)

ボランティアに興味・関心のある方、実際の活動の話を聞きたいという方にオススメの講座です。ボランティアの基礎や活動の探し方などをボランティア経験豊富な実践者がご案内します。

■定員: 30名 ■参加費: 500円 ■講師: 市民活動推進センター職員
■ゲスト: 高崎 賢一氏(災害ボランティアコーディネーターなごや代表)、名古屋市社会福祉協議会職員

講座受講のお申込みは、窓口・電話・FAX・電子メールにて受け付けます。電子メール・FAXでお申込みの際は、**講座名・氏名・電話番号・所属団体・参加動機**をご記入ください。名古屋市内に在住、在勤、在学の方、または名古屋市内で活動している(活動する意思のある)個人・団体を対象とします。詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。

※定員に達した時点で、締め切らせていただきます。ご了承ください。

■NPOアドバイザーによる個別相談のご案内 【参加費: 無料、要申込】

設立・運営、会計・税務、労務、法務など、NPOに関するあらゆる相談に、NPO支援において経験を持つ各分野のアドバイザーが、対面やオンラインで対応します。詳しくは、当センターのホームページでご確認ください。

※個別相談は、名古屋市内で活動する(または活動予定のある)NPO・市民活動団体が対象です。



【問合せ・申込先】

名古屋市市民活動推進センター
電話: 052-228-8039 FAX: 052-228-8073
電子メール: npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp URL: <https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/>

1・2月の設立認証NPO法人



名称	所在区	主な活動分野
Resilience	熱田区	保健・医療・福祉
えほん子ども	千種区	学術・文化・芸術・スポーツ
サポートオブサポーターズ・光	守山区	保健・医療・福祉
教員副業コーディネーターまちまち	緑区	職業能力・雇用機会
なごねこめいと	中村区	まちづくり
タダの家	北区	まちづくり
外国人ヘルプライン東海	中区	人権擁護・平和推進
Mc-22	緑区	保健・医療・福祉
ランプ	中村区	国際協力
日本バリアフリーコーディネーター協会	北区	保健・医療・福祉

2月末現在の所管法人数

★ 認証法人数: 874法人 認定法人数: 29法人 特例認定法人数: 3法人

スタッフのつぶやき

スタッフ: 細井

昨年から、家族の体調不良が続き、体調管理の大切さをますます実感中です。今年度は例年以上に、確定している予定～未定の予定(行きたいけどチケットがまだない!)等々があり、遠出の機会も増えそうです。楽しい予定はより楽しく、真面目な予定はより学びあるものとなるように、気合を入れすぎず、健康第一で過ごしていきたいです。



イラスト協力: 加藤舞美

NPO法人向け 伝言板

◆ 事業報告書等提出書類の最終チェック ◆

NPO法人は、事業年度終了後3か月以内に事業報告書等の書類を所轄庁に提出することになっています。提出書類の様式は、名古屋市市民活動推進センターホームページ (https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/npo_support/npo_manage.html) からダウンロードできます。

書類名	チェック項目	必要部数
<input type="checkbox"/> 事業報告書等提出書	<input type="checkbox"/> 名古屋市の様式を使っている <input type="checkbox"/> 法人名、法人住所、代表者、法人連絡先、担当者、担当者連絡先の記載がある ※法人書類の法人印の押印は省略することができます。	<p>全て1部 ※公開用の副本(2部)は、提出不要です。</p> <p><input type="checkbox"/> 個人印や口座情報、電話番号、車両ナンバー、生年月日などの、個人が特定できる情報は記載しないでください。</p> <p><input type="checkbox"/> 原本証明や捺印、監事の確認印も押さないでください。</p>
<input type="checkbox"/> 事業報告書	<input type="checkbox"/> 法人名、事業年度の記載がある <input type="checkbox"/> 事業の実施に関する事項の記載がある <input type="checkbox"/> 定款に「その他事業」がある場合、実施の有無について記載がある <input type="checkbox"/> 会議の開催に関する事項(総会・理事会)の記載がある	
<input type="checkbox"/> 活動計算書(※)	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 期間は、事業年度の始まりから終わりの年月日になっている <input type="checkbox"/> 定款に「その他の事業」がある場合、区分して記載している	
<input type="checkbox"/> 貸借対照表	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 日付は、事業年度の最終日現在になっている	
<input type="checkbox"/> 財産目録	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 日付は、事業年度の最終日現在になっている	
<input type="checkbox"/> 年間役員名簿	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 期間は、事業年度の始まりから終わりの年月日になっている <input type="checkbox"/> 全員の氏名にフリガナを振っている <input type="checkbox"/> 前年度内に役員をした人全員(途中で辞めた役員、途中から入った役員も含む)の記載がある <input type="checkbox"/> 就任期間の記載がある <input type="checkbox"/> 報酬を受け取った期間の記載がある 受け取っていない場合は「なし」になっている	
<input type="checkbox"/> 社員名簿	<input type="checkbox"/> 法人名の記載がある <input type="checkbox"/> 日付は、事業年度の最終日現在になっている <input type="checkbox"/> 10人以上の記載がある	

提出前の
事前確認に
使ってね!



事業報告書等提出書類は、郵送、窓口またはオンラインで提出してください。

郵送または窓口で提出する際に受け取り確認が必要な場合は、事業報告書等提出書の控えもあわせて提出してください。郵送の場合は、返信用封筒(切手を貼り、宛先を記入したもの)を同封してください。書類確認後、受付印を押印した控えを返送します。

*収支計算書で提出している団体は、活動計算書への切り替えをお願いします。

センターニュース

「なごやNPO応援事業」たくさんの応援ありがとうございました

社会課題の解決のために重要な役割を果たしているNPOの活動を応援するため、また、市民の皆さんのNPO活動への理解や共感を高める機会とするため、「なごやNPO応援事業」を実施しました。

市民とNPOとの交流イベント「なごやNPO応援フェスタ」を10月22日(日)に開催し、市内で活躍する19団体がブース出展しました。市民の方々に自分たちの活動をアピールするとともに、市民の方と直接話す機会となり、参加したNPOにとって活動の力を得る機会となりました！

11月26日(日)には、関連するチャリティイベント「ナゴヤアドベンチャーマラソン」が開催されました。ランナーは「走って社会貢献」、NPOはマラソンの運営にボランティアとして参加するとともに、会場で活動をアピールしました。

また、参加した19団体が自分たちの活動や思いを表す「キャッチコピー」を考え、キャッチコピーと写真でパネルを作成し、コンテストを開催しました！



●なごやNPOキャッチコピーコンテスト(令和5年10月～令和6年1月開催) 結果発表

このコンテストでは、①寄附者投票、②Web投票フォームからの投票、③Facebookでの「いいね」数、④投票会場での投票における得票数に応じて、参加団体に「なごやNPO応援寄附金」を活動資金として配分しました。

期間中は市民活動推進センターで投票を受け付けただけでなく、「なごやNPO応援フェスタ」などの会場にコンテスト投票ブースを設けて、市内で活動するNPOについて知っていただき、投票、応援をいただきました！

NPOの皆さんが、わたしたちのまち名古屋で、どのような思いをもって活動されているのか、パネルを通して知っていただく機会となりました。これからもぜひNPOの活動を応援してください。

1位 認定NPO法人 アイキャン

たくさんの応援、本当にありがとうございます。フィリピンと日本の人々が互いに学び合う場を作る活動等に活用させていただきます。



2位 NPO法人 ボラみみより情報局

たくさんの応援をいただき、ありがとうございます！様々な市民活動の魅力を伝える動画制作のため大切に活用させていただきます。



3位 NPOかけはし

初参加の団体ですが貴重なご支援を力に、より一層多くの方の笑顔の『かけはし』になれるよう頑張っていきたいと思っております。



投票期間は終了しましたが、作成したパネルは以下でご覧いただけます！

名古屋市市民活動推進センターHP https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/project/npo_ouen_R5/catchcopy/



なごや 市民活動通信

2024
5・6月号
No.111
無料

発行：名古屋市市民活動推進センター

INDEX

センターニュース 令和5年度 なごやNPO応援事業報告
NPO法人伝言板 事業報告書等提出書類の最終チェック

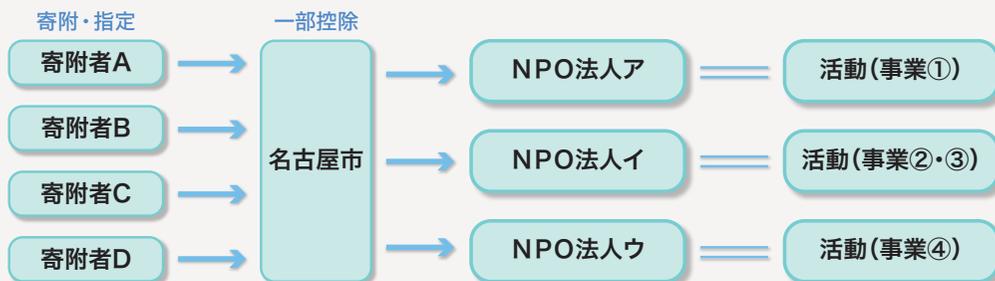
センターニュース



ふるさと納税を活用してNPO法人の事業をセレクト・支援してみませんか？

「NPO法人は応援したいけど、何をやっているんだろう？」という方に朗報です！
「あのNPO法人のこの事業」なら、興味もあるし応援したくなる…そんな風に、NPO法人の事業をセレクト、ふるさと納税でNPO法人を支援できる仕組み、NPO法人支援事業「ふるさとNPOセレクト」を創設しました。

「ふるさとNPOセレクト」の流れ



※1 寄附者は寄附金にあて先となる活動(事業)を指定できます。
※2 返礼品はありません。

寄附者は、具体的な特定非営利活動をふまえた上で、参加NPO法人の中から寄附対象となる法人を指定することができます。参加NPO法人には、寄附金額から一部控除された資金が交付されるほか、本制度に参加することで、資金獲得のための基本的なノウハウや、発信の場が得られます。

なお、昨年度まで実施しておりました「なごやNPO応援支援事業」のコンテストは終了します。

「NPO法人支援事業」について^(※)

対象団体：当センターに利用者登録されている、主たる事務所が名古屋市内にあるNPO法人

対象事業：名古屋市内で実施される、もしくは、名古屋市民が対象となる、上記対象団体が実施する特定非営利活動のうち、応募日から令和7年3月31日までに終了する事業

主な予定：対象団体募集：7月 寄附募集：9月～11月 補助金交付：1月以降

※原稿作成時点での情報となります。本事業の詳細・最新情報について、当センターのホームページで必ずご確認ください。
<https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/>

